

4年生の自立と学習を応援!

# チャレンジ通信

## 4年生

2010年

11月号

この本は、おうちのがたに  
わたしてください。

CONTENTS

P.1 おうち学習の秘訣  
わが家の  
裏ワザ学習法教えます

P.2 やる気奮の親ワザ教室  
記憶力

P.4 未来が広がる 職業図鑑  
医師

P.12 学習ポイントナビ  
国語の記述式問題を  
克服しよう

P.14 未来をたくましく  
生きるためのチカラ  
メモする力

大成功アイデアが満載!

親のサポートで  
苦手スパイラルは  
抜け出せる!

[巻頭としこみ]  
5年生準備特集



5年生からの  
コース登録受付スタート!

特集

P.5

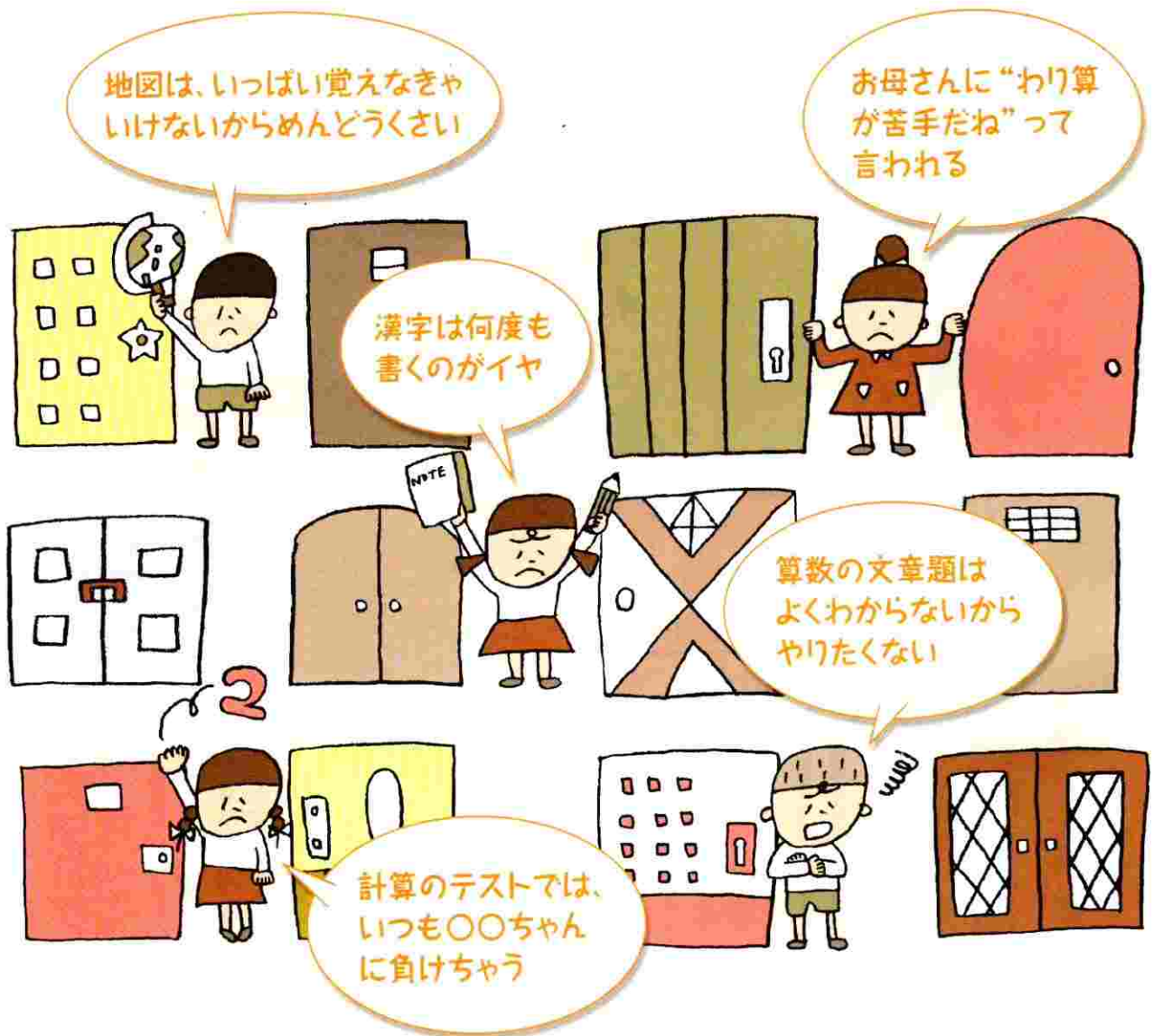


大成功アイデアが満載!

特集

# 親のサポートで 苦手スパイラルは抜け出せる!

「うちの子、〇〇が苦手みたい」と感じたことはありませんか？  
4年生は学習内容が難しくなり、解けない問題にぶつかることも多くなります。  
そこでやる気をなくしてしまうこともあり、先々の苦手へとつながりやすい時期。  
そうした苦手意識を取り除き、学習への意欲をアップさせるにはどうしたらいいのか、  
他の4年生ファミリーの成功例も交えてご紹介します。



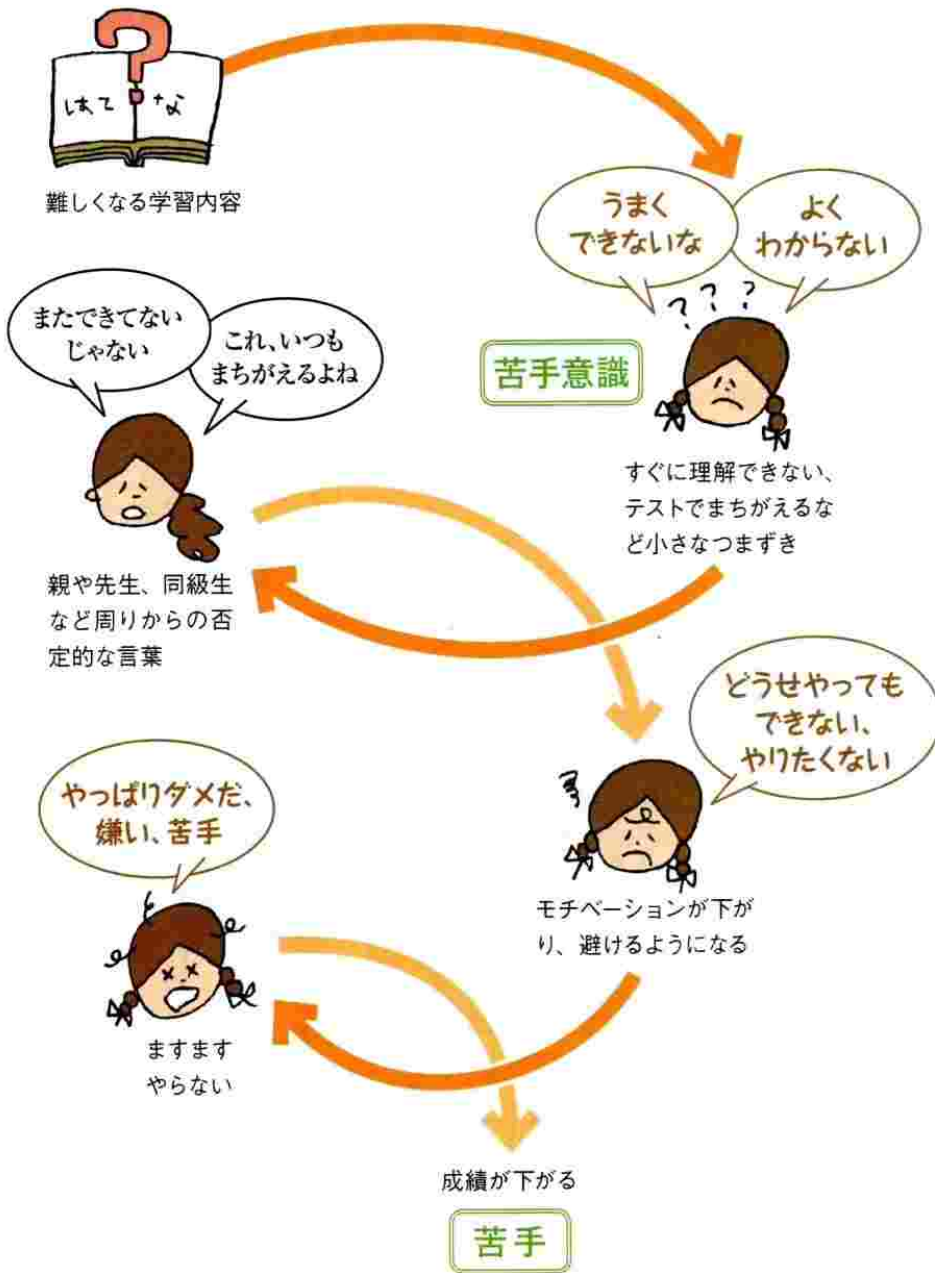
「できない」「やりたくない」の

# 悪循環が苦手をつくる

なぜ苦手が生まれるのか、また4年生頃から苦手を感じ始めるのはどうしてなのか、小学生の学習指導のプロ・高濱先生に伺いました。

## [ 苦手が生まれる負のスパイラルって? ]

子どもの中で生まれた小さな苦手の芽は、周りのかかわり次第では、本格的な苦手へと育ってしまいます。



今回お話を伺ったのは...



高濱正伸先生

思考力、国語力、野外体験を重視し、幼児から小学生を対象に指導する「花まる学習会」代表。講演などを行うほか、「考える力がつく 算数脳パズル 空間なぞべー」(草思社)など著書も多数。

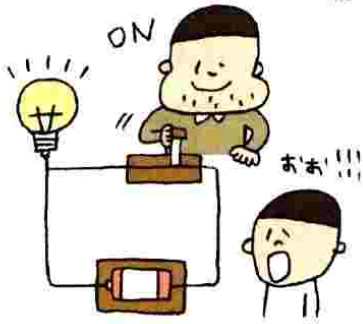
「苦手」になるかどうか、4年生がその分岐点

この時期の子どもたちは、発達に伴って自分自身と周囲を客観的に見ることができるようになり、自分と他人を比較して違い(特にできない部分)を意識するようになります。また、学習内容においては、これまでにない抽象的な内容や論理的な思考を必要とする問題が増えてきます。すぐに理解できないと、「自分はこれがうまくできないな」といった苦手意識が生まれてしまうこともあるのです。

ただ、「小学生の頃の学習における『うまくできない』は、発達の差によるところが大きいことも。時期の早い遅いはあっても、やればみんな必ずできるようになるもので、ずっとできないわけではないわけではありません」と高濱先生は言います。問題なのは、「うまくできない」という「苦手意識」が「どうせできない、嫌いだ」という「苦手」に変わることで、子どもがそう感じてしまうと進んで学習に取り組みなくなります。苦手へ変わるきっかけは、周囲からの否定的な言葉やかわり方も大きいようです。

## [ 苦手スパイラルを抜け出す3つのポイント ]

親の意識や接し方によって、苦手意識が生まれてしまった子どもでも、  
負のスパイラルから抜け出すことができます。



楽しいポイントを  
探し、  
教科自体を  
好きにさせる

例えば、理科の「電気のはたらき」がよくわからないと感じていても、楽しい実験を体験すれば「理科っておもしろい!」と思えるもの。興味、関心を引き出すような経験をさせられるとよいでしょう。「しくみを理解するのは難しいことですが、好き、楽しいという気持ちで学習すれば、成果は出やすいものです」(高濱先生)。



避けずに、  
興味をもって接する  
機会を  
親がつくる

つまずいたときの親の対応で、子どもの意識は大きく変わります。「この時期の学習はやれば必ずできるもの」と高濱先生。今できないからといって子どもを追い詰めず、「時間がかかっても絶対できるようになるから大丈夫」と、親が確信をもって接することが大切です。

「やれば必ず  
できる」ことを  
親は信じて見守る



うまくできないからと避けてしまっては克服できません。「できないことをそのままにせず、できたという体験をさせることが大切です」(高濱先生)。それには、苦手意識のある分野に接する機会をできるだけつくるのが大切。ゲーム感覚で取り組ませるなど、子どもが興味をもてるような工夫をするとよいでしょう。

「やればできる」を  
親が信じていることが大切

例えばテストなどでまちがえて、自信をなくしかけているところに、「なんでできないの?」と責められたり、「こういう問題、いつもできないよね」と苦手のレッテルをはられたりしては、子どもはどんどんやる気をなくし、その教科や単元に対して前向きに取り組めなくなります。逆に、「大丈夫。やれば必ずできるよ」になるから、しっかりやりやっというね」と言われれば、またがんばろうという気持ちになれるはず。そして、時間がかかってもできたときには、「本当に、がんばってやったらできた」と実感できます。「苦手意識」＝「苦手の芽」が出てくるといふことは、その芽を摘むチャンスのある時期でもあります。「4年生の頃の親の大切な役割は、やれば必ずできる」という意識を子どもにもたせること」と高濱先生。もし子どもがつまづくことがあっても、親はあせらず辛抱強く見守って「できた」という体験を積み重ねることが、この先に苦手をつくらない対策となるのです。

楽しいうえに学力もアップ！

# 大成功！クチコミ学習アイデア

苦手になりがちな単元も、  
アイデア次第！  
4年生フアミリーのひと工夫＆  
高濱先生おすすめの学習法を  
ご紹介！

九九やローマ字表、地図などは、リビングのテーブルに置いておく自然と目に入るようです。(埼玉県 りょうママ)

「チャレンジ」の教材の漢字辞典など、リビングに置いてもなかなか手に取らないので、思いきってトイレに置いたところ、たくさん言葉を覚えるように。私に問題を出したりして、親子で楽しんでます。

(宮城県 かれぼん)

高濱先生  
ここがポイント

「覚えなければならないものは、リビングやトイレなど必ず出入りするところに、一覧表をはったり辞書を置いたりするのがおすすめ。確実に目にする機会が増えます。受験などの成功事例も多いアイデアです」

高濱先生  
おすすめ学習アイデア

ミニテストをこまめにやる

「1年後にテストをするから200問覚えなさいと言われるより、明日の朝テストするから5問覚えなさいと言われるほうが取り組みやすいもの。できたという達成感を味わえるよう、難しすぎない問題にするのがポイントです」

きょうだいで学習したところについて話し合い、激論を交わしながら理解しています。

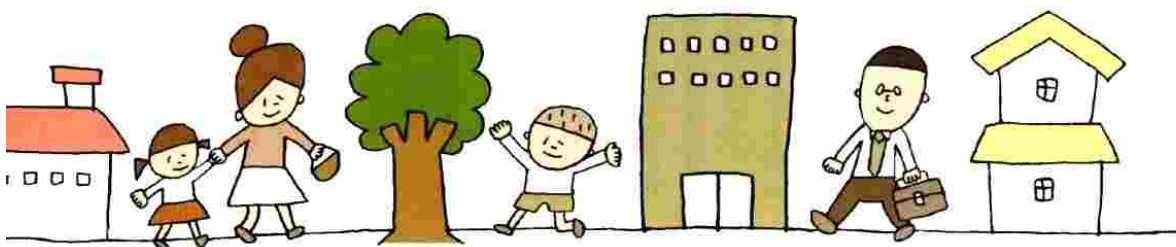
(神奈川県 ちっちき)

高濱先生  
ここがポイント

「自分が経験したことを言葉にするのは、とてもいいこと。『今日の言い方はわかりやすい』などと伝え合ってもいいですね」

お風呂に一緒に入ったとき、苦手な漢字を、クイズ方式で曇りガラスに書かせています。机で書くよりも、お風呂の中でのクイズという雰囲気が楽しいせいか、無理なく覚えているみたい。

(神奈川県 みほりん)



### 4年生の学習は、 「見直しのサポート」が ポイント

まちがえてしまった問題などは、できるまでやり直すことで身につきます。ただ、4年生の頃はやり直す意欲はあっても、なぜできなかったのか、どうしたらできるようになるのかを、自分自身で見つけることがまだ難しい段階。まちがえたポイントややり方は、親がヒントを出すなどサポートするとよいでしょう。できるまでやらせることで、「できた」という達成感を得られます。

高濱先生

ここがポイント

「子どもは勝負事が好きなので、クイズ形式で問題を出し合うと夢中になるはず。親や年上のきょうだいに勝つこともあるからよりおもしろいです」

たまにきょうだいで漢字クイズなどを出し合ったりしているからか、漢字テストはわりとよくできます。

(千葉県 みゆママ)

しんせき

親戚が住んでいるところや行ったところは、日本地図に丸をつけて、知らない土地ではないことを確認し合っています。(静岡県 ひろ・まる)

高濱先生

おすすめ学習アイデア

### パズルで 算数のおもしろさを知る

「算数のおもしろさは、単純な計算問題よりも、文章題など論理的な考え方が必要な問題を解けたときの快感にあると思います。論理的に考えて解くなぞなぞやパズルで、算数のおもしろさにふれてみてはいかがでしょうか」

パソコンのそばにローマ字表を置き、「ローマ字入力で好きなことを自分で調べていいよ」と言って使わせたら、自然とローマ字を覚えました。

(千葉県 そうたザイル)

高濱先生

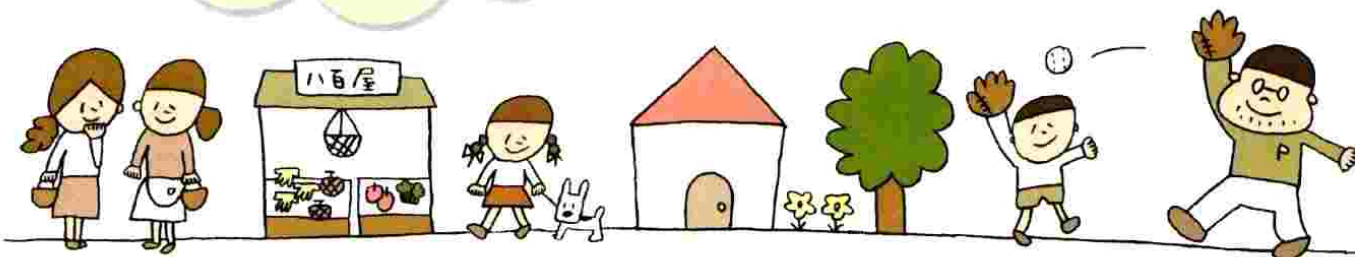
おすすめ学習アイデア

### 漢字の克服は 読解力アップにもつながる

「漢字はやはり反復練習がいちばん。そしてやれば必ず成果が出るものなので、達成感も味わいやすいです。漢字を覚えることで読解力も上がり、文章題などもわかりやすくなるなど、基礎学力がアップします」

わり算にも九九が必要なので、お風呂から出るときは、2の段から9の段まで言ってから出るようにしています。お風呂にはまだ九九のシートをはっています。

(埼玉県 まっちー)



# これからの学力が伸びる 親のかかわり方のヒント

この先ますます難しくなる学習に向けて、「もう教えきれない…」と思うかたもいるかもしれませんが、でも、普段の心がけで子どもをサポートすることはできるのです。そのヒントを教えてくださいました。

## 子どもの疑問には きちんと対応する

学習以外の事柄でも、「これはどうして?」と子どもに聞かれたときにきちんと対応できていますか? 「4年生くらいだと、『宇宙はどうやってできたの?』など親がなかなか答えられないような疑問を投げかけてくることもあります。そんなとき、ごまかしたりするのはNG。答えられない内容でも『そんなこと考えるなんてすごいね!』と、そういう疑問をもてたことをほめましょう。わからなければ親子で一緒に調べてみるのもいいですね」(高濱先生)。



## ニュースなどについて 本音で話し合う

いろいろなことに子どもの興味、関心が広がる時期。「例えばニュースを一緒に見て、その内容について話するとよいでしょう。社会の難しい問題でも、子どもが興味をもったなら、避けずに親なりの意見を伝えてほしいですね」(高濱先生)。子どもとのやりとりを適当にせず、きちんと向き合うことで、子どももさらに「聞いてみよう」と思うはずです。

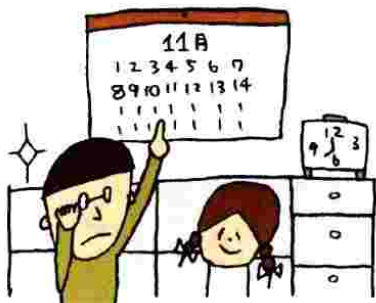


## 子どもの興味や意欲を サポートしましょう

4年生は、苦手の芽が生まれる頃ではありますが、いろいろなことへの興味や生まれ、知識を広げるのが楽しい時期でもあります。意欲をもって吸収することは、学力アップにおいても効果的。ときには答えにくい疑問を投げかけられることもあるかもしれませんが、そういった子どもの前向きな気持ちに対しては、「親はきちんとつきあっています。適当なごまかしは、子どもに伝わってしまうもの。真摯に接することが、子どもの興味や意欲を育てるサポートにつながります。」  
そして、「小さな成功体験をいくつも積み重ねていくことも大切」と高濱先生。「例えば毎日少しずつの学習でも、しっかりと認めること。『今日もできたね』という親のひと言が、子どもにとっては、機関車に石炭をくべるような大きな推進力になります」(高濱先生)。小さいステップを確実に上っていくことが、先々の学力アップにも重要なのです。

## 学習習慣の“立て直し”は 節目を利用する

崩れてきた学習習慣の立て直しをさせるとき、コミュニケーションのとおり方ひとつで子どもの意識も変わります。「学期や学年の変わり目など、節目のときに伝えると効果があります。ポイントは、いつもとは違う毅然とした態度で伝えること。『今日から11月だね。最近、ペースが乱れがちだけど、これからは毎日きちんとやろうね!』というように」(高濱先生)。あらためて言われることで子どもも気持ちを切り替えやすく、強く意識することができるのです。



## 編集室より

苦手意識が生まれやすいこの時期も、親のかかわり方でその芽をつむことができます。必ずできると信じて、できるまでサポートすること。そして、小さな成功体験をたくさん経験させて達成感を味わわせていくことを心がけたいですね。

## つい親子バトル!! というときには…

なんとかしなきゃと日々奮闘していても、子どもに反発されるとついイライラ…というおうちのかたも多いのでは? これまで4年生をはじめ多くの家庭を見てきた高濱先生に、おうちのかたのストレス解消方法を伺いました。

### ●何でも話せる相手に相談する

「ママ友や昔からの親友など話を聞いてくれる相手に、メールでもいいから相談してみましょう。気持ちが楽になると思います」

### ●親以外の大人の手も借りてみる

「勉強を教えるとき、親だと感情的になってしまうことでも、ほかの大人なら冷静に教えられる場合も。親とは違う視点でほめてくれることもあり、子どもも、素直にがんばれます。親戚や友達、家族などに頼ってみては」

## マイナスなこと もポジティブにとらえる

「マイナスなことが起きても、ポジティブにとらえて最終的には『良かったね』と言うことを心がけて」と高濱先生。物事には良い側面も悪い側面もあるもの。マイナスな出来事も、子どもの成長の過程のひとつとしてとらえましょう。例えば子どもが友達とケンカしたら、「今はつらいだろうけど、ケンカもひとつの経験になるから良かったね」、仲直りしたら「仲直りするのがいちばんだよね、良かったね」などと伝えましょう。

